

県感染症情報センター

声なき感染症を知る ◆6◆

8月27日、厚生労働省は、海外渡航歴のない埼玉県内の女性がデング熱に感染したと発表しました。国内感染例は、69年ぶりのことです。今回は、デング熱の国内流行事情と、世界保健機関が報告した温暖化と感染症についての話をします。

カリブ海諸国と中南米のブラジルなどです。国内での流行は戦中の昭和17(1942)年から20年にかけて、神戸、大阪、呉、佐世保などで帰還兵を感染源とした大きな流行が起りました。その後、国内での流行はありませんでしたが、平成22(2010)年ごろから、東南アジアへの渡航者が帰国後に発症するケースが増えていることを受け、

▽国内流行事情
デング熱はデングウイルスによる疾患で、患者から蚊が吸血し、

木公園を含む都内の複数の公園とその周辺で感染したと考えられる患者が続々と確認され150人を超す大きな流行となつていきます。

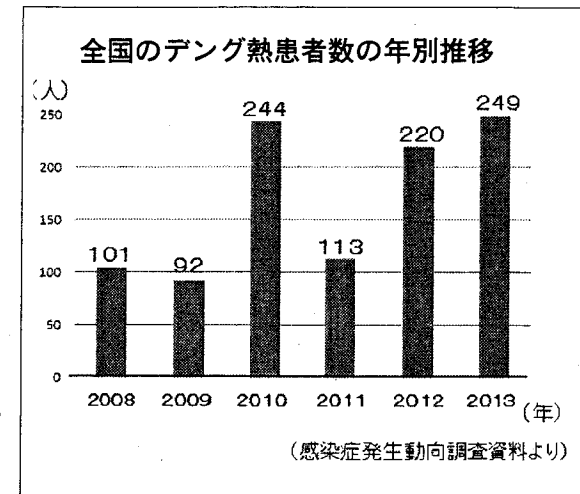
議」で、地球温暖化に伴う気象変動が現状のまま進行すれば、感染症が一層深刻化し、こうした病気による死者が増加するとの予測を公表しました(WHOの公式ウェブサイト参照)。

69年ぶり感染例
温暖化で深刻化

その蚊が他のヒトを吸血することで感染が広まります(ヒト→蚊→ヒト)。主な流行地はタイ、ベトナム、インドネシア、フィリピン、

厚生労働省は旅行者に対し、服装や虫よけ剤の使用を促すなどの注意喚起を行ってきました。そのような中、代々

今回の感染は、ウイルスの遺伝子型が一致していることから、公園の蚊が感染者を吸血し、他のヒトを刺すことで感染が広がったと考えられています。東京都での蚊の越冬は難しいと考えられますが、亜熱帯の沖縄県では越冬が可能であり、少なくとも沖縄で発生しなかったことは幸いです。



▽地球温暖化と感染症
時を同じくして、世界保健機構(WHO)は8月27日、ジュネーブで開かれた「健康と環境に関する世界会議」で、地球温暖化に伴う気象変動が現状のまま進行すれば、感染症が一層深刻化し、こうした病気による死者が増加するとの予測を公表しました(WHOの公式ウェブサイト参照)。

第2木曜日掲載